

インターバンクの声（2016年8月22日）

先週末のニューヨーク市場は米国の経済指標発表もなく、前日まで続いた米地区連銀総裁らによる講演もなかったため、ドル/円やユーロ/ドルなど主要通貨の取引値幅も小幅に留まった。先週を振り返ると、前週末や週初に発表された米経済指標が市場予想を大幅に下回ったことから、米国の年内利上げの可能性がほぼ消えかけ、ドルの下落見通しが高まった。このため、ドル/円は何度も100円を割って99円台半ばに下落する場面も見られたが、さらなる下落を食い止めたのは、ニューヨーク連銀のダドリー総裁や、アトランタ地区連銀のロックハート総裁らによる早期利上げを支持する発言だった。それでも米連邦準備制度理事会（FRB）の追加利上げが9月にあるかどうかは依然不透明だ。8月26日に予定されているジャクソンホールでの経済シンポジウムでイエレン議長がハト派的な見解でも示せば、年内の利上げの可能性すら薄れ、ドル/円には再び円高圧力がかかるだろう。今週は米住宅関連指標などの発表があるが、先週後半の持ち高調整などを見ると、週末まで極端に相場が動く可能性は低そうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。